

18. 医学部

(1) 医学部の教育目的と特徴	18-2
(2) 「教育の水準」の分析	18-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	18-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	18-12
【参考】データ分析集 指標一覧	18-14

(1) 医学部の教育目的と特徴

1. 教育目的

本学部は、「人の健康と福祉の増進」という医学の使命を達成するための人材を組織的に養成する。

2. 教育プログラムの特色

- ・ 医学科と生命科学は共通のカリキュラムで基礎医学を履修。
- ・ 医学科は3年次に基礎医学・臨床医学研究室での医学研究体験を実施。4年次終了後に大学院に進学するMD-PhDコースも設置。
- ・ 生命科学科は3年次の前期・後期研究室配属と4年次の卒業研究を実施。
- ・ 医学科は5年次に地域医療機関での1か月滞在型地域医療体験臨床実習教育を実施。
- ・ 医学科は6年次に国外（アジア、ヨーロッパ、米国）の大学と1か月の長期学生交流を実施。
- ・ 保健学科では、日本学生支援機構（JASSO）などの支援を受け、アジアの複数の大学と短期国際交流を行い、毎年約10名の学生の派遣や受け入れをしている。
- ・ 医学・保健学・歯学・薬学に共通する生命科学と健康科学の統合授業科目を設定。

3. 以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「入試改革により高い学習意欲を持つ優秀な学生を受け入れ、自ら学ぶ姿勢や態度、分野横断的な俯瞰力、課題発見・解決能力を育む学部教育を展開し、豊かな教養と人間性を備え、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材（アクティブ・ラーナー、骨太のリーダー）を育成する」を踏まえている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7318-i1-01～02）
- ・ 公表された学位授与方針_2020年3月（別添資料 7318-i1-03～07）
（添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7318-i2-01～02）
- ・ 公表された教育課程方針_2020年3月（別添資料 7318-i2-03～07）
（添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7318-i3-01～13）
- ・ 体系性が確認できる資料_2020年3月（別添資料 7318-i3-14～18）
（添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 7318-i3-19）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科では、医学部長の下にワーキンググループを設置し、2021年度入学者への適用を目指して、医学教育モデルコアカリキュラムおよび国際認証評価（医学教育分野別評価）基準に沿った形へのカリキュラム改訂を検討した。WGによる素

九州大学医学部 教育活動の状況

案に対する教員からのフィードバックも踏まえて、教務委員会でカリキュラム改訂案の作成を行った。特に国際認証評価で求められる臨床実習時間数の確保を念頭に、各学年の講義内容を系統的に見直して相互の重複等を精査した上で、整理統合廃合を検討した。また、臨床実習後の客観的臨床能力試験（Post-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination; PCC-OSCE）を2018年度・2019年度に試行した。（別添資料 7318-i3-20～21） [3.1][3.2]

- 医学科では、社会の要請である医師に適した学生の選抜を進めるため、医学科の入学試験の改革を進め、2017年度入学試験から志望理由書の提出を導入し、2020年度入学試験からは更に面接試験の導入に踏み切った。

（別添資料 7318-i3-22～24） [3.2]

- 保健学科では、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師及び保健師（選択コース）の各国家試験受験に必要な科目を中心に体系的なカリキュラム編成と医療系専門資格や実践経験が豊富な専任講師による教育体制により、保健・医療・福祉など社会の要請に応える人材を養成し、毎年1回、地域に開かれた公開講座や国際フォーラムを主催し、国際医療の場で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。 [3.1][3.2]

- 保健学科では、2014年度に採択された文部科学省が支援する課題解決型高度医療人材養成プログラムにおいて、「実践能力強化型チーム医療加速プログラム」は、チーム医療に貢献でき、高い指導能力を持った生体機能診断支援領域（診療放射線技師、臨床検査技師）の人材養成に取り組み、2016年度から2018年度までの間、実習指導で中心的役割を担う臨地実習指導者として162名を認定した。また、技師の業務拡大に対応できる293名の修了者を出した。 [3.2]

- 医学科では、新入試（2021年度入試）と認証評価（2021年度受審）に向けた3ポリシー（ディプロマ・カリキュラム・アドミッション・ポリシー）の全学的な見直しに伴い、医学部の3ポリシーを国際認証評価（医学教育分野別評価）基準との整合性に配慮しながら改訂した。（（再掲）別添資料 7318-i3-19） [3.1][3.2]

- 総合大学としての多様性を背景に、特定の学部を指定せず学際的な学びを展開する総合科目を開いている。（別添資料 7318-i3-25～28） [3.3]

- 専門教育で培った知を分野横断的に広げる高年次基幹教育科目を開いている（別添資料 7318-i3-29～32） [3.4]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7318-i4-01～03）

- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
((再掲) 別添資料 7318-i4-01、別添資料 7318-i4-04~07)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数 (別添資料 7318-i4-08)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料 (別添資料 7318-i4-09)
- ・ 指標番号 5、9~10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文理混合で学際的テーマについて協働学習を行う PBL 科目である課題協学科目を全学必修科目として開いている。(別添資料 7318-i 4-11~12) [4. 1]
- 専門教育においては、従前より実施してきた専門職連携教育および地域医療実習の一層の改善と発展を進めて、医学科学生ของทีม医療や地域医療に対する意識の向上を促した。また、医学研究院と生体防御医学研究所の教員が先端研究を紹介する「生命医科学研究入門」を新たに設けて、医学科・生命科学科学生の研究マインド醸成を更に促した。(別添資料 7318-i 4-13) [4. 1]
- 臨床実習Ⅱにおいては、九州大学病院だけでなく海外の大学も含めた学外病院における実習も選択可能なカリキュラムとした。(別添資料 7318-i 4-14) [4. 2][4. 6]
- e-Learning システム、講義資料配信システム、シミュレーター等の利活用を更に進めた。(別添資料 7318-i 4-15) [4. 3]
- 医学研究院に 4 研究分野(衛生・公衆衛生学分野(2016 度)、疾患情報研究分野(2017 年度)、連携社会医学分野(2018 年度)、プレジジョン医療学分野(2019 年度))を新設し、時代に即した医学教育の実現に適した教員構成を実現した。基礎医学系分野では、教授 1・准教授 1・助教 2 の教員体制を実現し、基礎医学の教育研究体制の強化を図った。(別添資料 7318-i 4-16) [4. 4]
- 倫理教育の強化のために、2015 年度に新設された九州大学医学歴史館における展示の活用を開始した。(別添資料 7318-i 4-17) [4. 5]
- 学習成果の客観的可視化を推進すべく、従前の CBT (Computer Based Testing)、Pre-Clinical Clerkship OSCE に加えて、Post-Clinical Clerkship OSCE の導入を進めた。また、医師国家試験用の模擬試験の導入も進めた。
((再掲) 別添資料 7318-i3-21、別添資料 7318-i 4-18) [4. 7]
- 保健学科では各分野の専門家を講師として招聘し、特に医療系高度専門職者は臨床教授等の称号を付与し、実践的な能力の育成を工夫している。実習は九州大学病院を中心に、地域の保健福祉施設や訪問看護ステーション等で臨地実習を行い、その振り返りによって看護・保健・医療の意味や価値、自己の課題を明確に

九州大学医学部 教育活動の状況

するとともに、医療現場での実践的実習により多様な研究課題に直面できるよう工夫している[4.1][4.2][4.6]。

- 保健学科の多くの講義・演習において、Moodle を活用し、出欠管理やWeb 資料を用いたペーパーレス教育を行うだけでなく、実習記録等も電子ファイル化を進めている。また、基礎看護技術の演習では、専用の多機能カメラシステムやモデルを用いたシミュレーション教育を活用している。[4.3]
- 保健学科では、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師の医療系専門資格と実践経験をもつ専任講師による教育構成が基本で、少子高齢社会で活躍できる医療人の教育と少人数グループでの研究指導体制により、研究マインドをもつ医療人を養成している。[4.1][4.4]
- 研究倫理を組み入れた講義は各学部で毎年行い、医療における倫理についても専門科目の講義や実習において各分野の教育に組み入れている。放射線技術科学専攻では集中したきめ細かな研究指導を行い、毎年7割程度以上の学部4年生が九州放射線医療技術学術大会で発表することを経験している。[4.5]
- 卒業時には、一部保健学科独自の学生支援会の補助を受けながら、学部および学府のそれぞれについて、保健学科学生委員会または保健学科が規則に則り選考した保健学部門会議で認めた各分野と各専攻の優秀学生の表彰を行い、学習成果を可視化している。[4.7]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 7318-i5-01）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 7318-i5-02）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 7318-i5-03）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 7318-i5-04）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科・生命科学科では、担任教員、学修指導員、教務委員会、医学教育学分野、医学学生係の連携を緊密なものとすることにより、学習支援の充実と学習意欲の向上を促す体制の強化を進めた。学生自習室の整備・改修、解剖学実習室モニターシステムの更新、講義室スライド投射システムの更新によって、学習環境

の整備を進めた。(別添資料 7318-i5-05~06) [5.1]

- 保健学科では、学業や生活、進路等の相談相手となる担任制度を1年次生から4年次生全員に実施している。高年次には研究室の配属(2~4名)によりきめ細かい学習支援と学習意欲向上に努めている。[5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準(別添資料 7318-i6-01~04)
- ・ 成績評価の分布表(別添資料 7318-i6-05)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料((再掲)別添資料 7318-i6-03~04)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 基幹教育では成績評価はルーブリックに基づくものとし、シラバスで評価方法(含ルーブリック)を公開している。(別添資料 7318-i6-06~07) [6.1]
- 医学科では、従来の臨床実習開始前の共用試験(CBT/OSCE)に加えて、臨床実習後卒前OSCE(PCC-OSCE)の試行導入を2018年度・2019年度に行い、臨床能力評価の厳格化を推進した。筆記による卒業試験については、一科目でも不合格の場合には翌年の全科目の再履修を義務づけて成績評価の厳格化を進めた。(別添資料 7318-i6-08~09) [6.1]

<必須記載項目7 卒業(修了)判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定(別添資料 7318-i7-01~03)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料((再掲)別添資料 7318-i7-03)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科では、ワーキンググループを設置して卒業試験の見直しを進め、判定を厳格化した試験の全科目合格を卒業要件とした。併せて、臨床実習後のOSCEへの合格も卒業要件に加えることを決定した。((再掲)別添資料 7318-i3-19) [7.1]

＜必須記載項目 8 学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7318-i8-01～02）
- ・ 学生受入方針が確認できる資料_2020年3月（別添資料 7318-i8-03～07）
添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7318-i8-08）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科では、医師としての適性を備えた学生の選抜をより確実に行うための入学試験制度の改革を進めた。具体的には、2017年度実施の入試より志望理由書の提出を義務付けた。さらに、2019年度実施の入試より面接試験を導入した。
（（再掲）別添資料 7318-i3-22～24）[8.2]
- 生命科学科では、生命科学研究に深い興味を持つ志願者増加方策として、受験生向けサイトをホームページに設けた。（別添資料 7318-i8-09）[8.2]
- 保健学科では、アドミッション・ポリシーの中で、求める学生像として、①高い倫理観および社会貢献への意欲、②課題解決に向けた主体性、③幅広い知識や技能、論理的思考の習得への熱意、④国際活動への高い意欲、⑤周囲、他分野の人々との協調性を有することを挙げている。自主性、主体性が高い学生を受け入れる目的で、2021年度の入試より、一般選抜において、新たに志望理由書の提出を求めることにしている。さらに、AO入試では、保健・医療・福祉の発展に貢献したいという強い意欲と使命感、探求心、創造性、生命体への関心も評価基準に加え、個別学力検査を免除し、大学入試センター試験および書類、小論文、面接により選抜しているが、2021年度からは、このAO入試の募集人員を1名増員する予定である。また、国際化を推進するため、私費外国人留学生選抜試験を実施し、各学年1名程度の外国人学生が在籍している。（別添資料 7318-i8-10）
さらに、入学前の学生への直接的な広報活動として、オープンキャンパスや高等学校への出前講義を実施している。オープンキャンパスでは、毎年1,000名を超える参加者があり、アンケートでは95%以上の参加者から、“役に立った”との回答を得ている。（別添資料 7318-i8-11～12）[8.1]

＜選択記載項目A 教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（（再掲）別添資料 7318- i 4-08）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 正課の授業外での自主的な英語学習のサポートを目的として、基幹教育院が設置した SALC(Self-Access Learning Center)を本学部生が利用できるようにしている。（別添資料 7318- i A-01）[A. 1]
- 医学科・生命科学科では、医学英語教育の充実を目的に国際医科学教育ユニットを設置して、医学研究の経験がある native speaker を講師として選考採用した。クリニカルクラークシップでは4期のうち1期を海外大学で研修可能としており、2016、17、18、19年度にそれぞれ23、13、17、20名の学生が米国、ドイツ、韓国で研修を行い、6、9、9、9名の学生を韓国の3大学より受け入れた。この他、マヒドン大学からも9、6、10、5名を受け入れた。
（別添資料 7318- i A-02）[A. 1]
- 保健学科では、2006年より毎年国際フォーラムを開催し、海外より講師や学生を招聘し、外国人講師による特別講演や学生が主体的に関わる Student Meeting を企画し、英語による交流、プレゼンテーションなどにより国際的感覚を養う機会を提供している。また、学部生の留学生は、マヒドン大学や高雄医学大学、香港大学より受け入れており、2018年度は9名、2019年度は9名の受け入れを行った。その他、検査科学分野では、アンヘンス大学、台北医学大学より3名、医用量子線科学分野では、マヒドン大学、デイポネゴロ大学、バンドン工科大学より8名の留学生を受け入れた。派遣についても、受け入れと同じ、マヒドン大学や高雄医学大学、香港大学に加え、ケンブリッジ大学、モナッシュ大学、ビクトリア大学への派遣実績がある。看護学分野では、2018年度は9名、2019年度は2名派遣した（年度予定では6名であったがコロナウイルス感染症拡大の影響により残り4名は派遣を中止した）。検査学分野では、2019年度は、マラヤ大学へ、医用量子線科学分野では、高麗大学、台湾国立精華大学、マヒドン大学等へ計9名派遣した。（別添資料 7318- i A-03）[A. 1]

<選択記載項目 B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 4タームからなる「臨床実習Ⅱ」においては、そのうち1タームを全国の基幹病院および連携関係にある海外の大学において臨床実習を行うことを認めており、実習先の多様性が年々高まるなど、連携が推進されている。
((再掲) 別添資料 7318- i 4-14) [B. 1]
- 保健学科看護学専攻では、2016年度に九州大学病院内に看護キャリアセンター運営委員会を設置し、保健学科看護学専攻と大学病院看護部との教育・研究及び社会貢献の推進を図るとともに、看護部との人事交流を開始した。看護学専攻からは専門看護師を含む3名が大学病院で実践やコンサルテーションを行い、看護部からは年間を通じて副看護師長1名が学部教育に加わり、臨床の現場で必要な知識を身に付けるための講義や実習指導を行っている。[B. 1]
- 保健学科放射線技術科学専攻では臨地実習受け入れ施設と大学教員からなる「実践能力強化型チーム医療教育連絡会議」において教員と実習受入関連医療機関が密に連携を図っている。[B. 1]
- 保健学科検査技術科学専攻では臨地実習の前に、受け入れ側の大学病院検査技師と専攻教員の間で、より有効な経験を得るための密な打ち合わせを行い、臨地実習後も各々の検査に関する振り返りを行っている。[B. 1]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科・生命科学科では、FDを毎年開催して、医学教育分野別認証評価や入学試験における面接試験について外部講師から学ぶとともに教員間での討論を行なった。そこでの議論は、認証評価に向けたカリキュラム変更や面接試験方式の策定等の教育改善に有効に活用された。(別添資料 7318- i C-01) [C. 1]
- 保健学科では、保健学部門地域・国際・FD委員会を中心として、保健学教育を

九州大学医学部 教育活動の状況

テーマにしたFDセミナー（講義及び教員討論）を毎年度開催している。

（別添資料 7318- i C-02） [C. 1]

- 看護学専攻では、看護学教育に関する専攻主催のFDを毎年開催し、学内外の講師によるセミナーと小グループ形式の討議・発表を行い、専門・実践的な教育法の改善に努めた。（（再掲）別添資料 7318- i C-02） [C. 1]
- 放射線技術科学専攻では、「実践能力強化型チーム医療教育連絡会議（H26～H30）」において学部教育内容の検討と実習での到達目標などの検討を進め、その成果を臨地実習指導要領としてまとめ大学教員、学部生、実習指導教員で共有をしている。またこの取組において、2016年度と2018年度に外部評価を受けた。

（別添資料 7318- i C-03） [C. 2]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7318-ii1-01）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7318-ii1-02）
- ・ 指標番号 14～15、17～18（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7318-ii1-5）
- ・ 指標番号 19～20（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7318-ii1-6）
- ・ 医学課程卒業生の医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・ 看護学課程卒業生の看護師国家試験合格率（厚生労働省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016年の新卒生の医師国家試験合格率が過去最低の87.6%を記録したため、ワーキンググループによる原因の分析検討を行ない、卒業試験の改革を行った。以降、合格率は96.1%、93.0%、89.4%、96.4%と推移しており、2019年の新卒生がやや不振であったものの概ね良好な結果を得ている。

（別添資料 7318-ii1-03） [1.1]

- 保健学科の学生は、看護師・保健師（選択コース）・診療放射線技師及び臨床検査技師の国家試験の受験資格を取得し、全国平均以上の合格率を収めている。特に、看護師・保健師国家資格については、2016年度以後毎年95%以上合格の成果を挙げている。診療放射線技師については、2017年度は89.7%であったものの、その他の年度については90%以上の合格率を収め、良好な結果を得ている。臨床検査技師については、例年70%以上の合格率であることから、より一層の改善を目指している。（別添資料 7318-ii1-04） [1.2]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～22（データ分析集）
- ・ 指標番号 23～24（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7318-ii2-2～3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科卒業生はほぼ全員が初期研修医となるが、例年1名前後は基礎医学の研究のために大学院に進学する。生命科学卒業生はほぼ全員が修士課程に進学する。（別添資料 7318-ii2-01） [2.1]

九州大学医学部 教育成果の状況

- 第3期中期目標期間における保健学科卒業生の就職先は、約57%は大学病院、国公立病院などの基幹病院であり、そのほかは公的病院、民間病院となっている。就職率は約75%（卒業者に占める就職者の割合）で、社会の高度医療人育成という要請に込えている。また、学部卒業生の約19%は大学院修士課程に進学し、さらに修士学生の約3%が博士課程に進学している。研究重点大学としての役割も果たしている。（（再掲）別添資料7318-ii1-04）[2.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。